第３回 島原市市勢振興計画審議会

平成３１年２月１９日（火）
１３：３０～１５：３０
杉谷公民館　大ホール

次　第

１．まちづくり座談会の結果報告について
（質疑、意見交換含む）

２．基本構想素案について
（質疑、意見交換含む）

３．全般的な意見交換

配布資料
・委員名簿
・島原市市勢振興計画審議会条例
・第７次島原市市勢振興計画策定のためのまちづくり座談会結果
・第７次島原市市勢振興計画策定の経緯（平成 30 年 8 月～平成 31 年 2 月）
・第７次島原市市勢振興計画基本構想（素案）
・第７次島原市市勢振興計画基本構想（素案）基本理念、将来像の考え方
・第７次島原市市勢振興計画基本構想（素案）における
　人口指標について（島原市人口ビジョンの取扱い）

第7次島原市市勢振興計画審議会委員　24名（五十音順）

H30.1.1現在

	所属等	氏名
1	島原市町内会・自治会連合会　会長	阿部　洋次郎
2	（福）島原市社会福祉協議会　会長	伊東　作藏
3	有明町商工会　会長	片山　輝雄
4	長崎県島原振興局管理部　地域づくり推進課長	川上　年仁
5	島原市婦人会連絡協議会　会長	川本　まなみ
6	島原市商店街連盟　会長	隈部　政博
7	公募委員	坂本　直子
8	（一社）島原市医師会　事務局長	嶋井　量章
9	島原鉄道（株）　取締役総務部長	陶山　幸造
10	島原市老人クラブ連合会　会長	田中　正之
11	長崎県男女共同参画推進員	珠林　成子
12	（株）島原観光ビューロー　代表取締役	中村　慎次
13	（一社）島原青年会議所　理事長	永代　秀顕
14	国土交通省九州地方整備局雲仙復興事務所　総務課長	平河　和博
15	島原市消防団　団長	本田　庄一郎
16	島原雲仙農業協同組合　代表理事専務	本田　嘉文
17	公募委員	前田　尚美
18	公募委員	松本　段
19	島原商工会議所　会頭	満井　敏隆（副会長）
20	島原市教育委員会　委員	森　みずき
21	長崎大学経済学部　准教授	山口　純哉（会長）
22	公募委員	山本　直子
23	島原市子ども・子育て会議　副会長	吉岡　今日子
24	島原漁業協同組合　代表理事組合長	吉本　政信

○島原市市勢振興計画審議会条例

平成30年３月30日条例第１号

島原市市勢振興計画審議会条例

（設置）

第１条　本市における市勢の振興を図るための計画（以下「市勢振興計画」という。）策定に関し、必要な事項を調査審議するため、島原市市勢振興計画審議会（以下「審議会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第２条　審議会は、市長の諮問に応じ、本市の市勢振興計画の策定に関し、必要な調査及び審議を行う。

（組織）

第３条　審議会は、委員25人以内で組織する。

２　委員は、次の各号に掲げる者のうちから市長が委嘱し、又は任命する。

（１）　市内の関係団体等の代表者又は役員

（２）　学識経験を有する者

（３）　関係行政機関の職員

（４）　前各号に掲げる者のほか、市長が必要と認める者

（任期）

第４条　委員は、当該諮問に係る審議が終了したときは、解任されるものとする。ただし、任期中であっても、その本来の職を離れたときは、委員の職を失うものとする。

２　市長は、委員に欠員が生じたときは、前条に規定する者のうちから委員を選任することができる。

（会長及び副会長）

第５条　審議会に会長及び副会長各１人を置き、委員の互選により定める。

２　会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

３　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

（会議）

第６条　審議会は、会長が招集する。

２　審議会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

３　審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

（部会）

第７条　会長は、審議会に専門的事項を分掌させるための部会を置くことができる。

２　部会は、会長の指名する委員をもって組織し、部会長は委員の互選による。

３　部会の運営に関し必要な事項は、部会長が会長の同意を得て定める。

（関係者の意見聴取）

第８条　会長及び部会長は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見を聴取することができる。

（庶務）

第９条　審議会の庶務は、市長公室において処理する。

（委任）

第10条　この条例に定めるもののほか、審議会の運営について必要な事項は、市長が定める。

附　則

（施行期日）

１　この条例は、公布の日から施行する。

（経過措置）

２　この条例の施行後最初に招集する審議会の会議は、第６条第１項の規定にかかわらず、市長が招集する。

第３回島原市市勢振興計画審議会資料

第７次島原市市勢振興計画策定のためのまちづくり座談会結果

目的

第７次島原市市勢振興計画の策定にあたり、世代・分野ごとに市民の皆様と意見交換を行い、出された意見を市民アンケートの結果と併せて計画策定の参考とする。

※世代・分野ごと…子育て世代、高校生、地区別代表者、移住者

開催実績

【職員ワークショップ】

まちづくり座談会を開催する前に、若手職員２２名からなる職員ワークショップを開催（H30.12.27）し、座談会の進め方や市民の皆様に聞いてみたいことなどを協議した。

【まちづくり座談会】

職員ワークショップで協議した内容に基づき、以下の日程でまちづくり座談会を開催した。

（子育て世代）

平成３１年１月１０日（木）１９：００～２０：３０　杉谷公民館大ホール

市内の保育園、認定こども園から保護者１３名参加（２グループに分かれて進行）

（高校生）

平成３１年１月１１日（金）１６：３０～１８：００　森岳公民館大ホール

市内の５つの高校から生徒１８名参加（高校別に５グループに分かれて進行）

（地区代表者）

平成３１年１月１５日（火）１３：３０～１５：００　杉谷公民館大ホール

市内７地区の町内会・自治会から１５名参加（４グループに分かれて進行）

（移住者）

平成３１年１月１６日（水）１３：３０～１５：３０　雲仙復興事務所２階会議室

島原市の移住コンシェルジュや地域おこし協力隊等から１２名参加

市側の参加者：政策企画課長、政策班

職員ワークショップメンバー（２２名を４グループに分けて参加）

市勢振興計画審議会委員（自由参加）

山口委員（長崎大学経済学部准教授）

伊東委員（市社会福祉協議会会長）

川上委員（島原振興局地域づくり推進課長）

森委員（市教育委員）

山本委員（公募委員）

（株）ぎょうせい九州支社（策定支援業務委託業者）

出された意見のまとめ

全日程において、市民の皆様から活発に意見が出され、「島原市のことを考えるいい機会になった」との感想も聞かれた。

出された意見を内容別に８つに分類し、傾向をまとめると以下のとおりであり、個別の意見詳細は別紙の一覧表のとおり。

（意見内容分類）

①歴史・文化・自然　②にぎわい・暮らし　③若者定着　④情報発信
⑤公共交通　⑥地域のつながり　⑦物産　⑧子育て・医療

（分類ごとの意見の傾向）

①歴史・文化・自然
・山、海、湧水を魅力とする意見
・歴史や伝統を重要視する意見

②にぎわい・暮らし
・商業施設や娯楽施設を望む意見
・過度な発展よりも島原らしさを大切とする意見

③若者定着
・大学、専門学校の設置を望む意見
・良好な雇用機会や処遇を望む意見

④情報発信
・島原の特色を活かしたPRが必要とする意見
・一律の情報発信だけではなくターゲットを絞ることを必要とする意見

⑤公共交通
・公共交通の利便性向上を望む意見。

⑥地域のつながり
・地域に対する若者の関心の低さを心配する意見
・地域でのふれあいやつながりが暮らしには大切だとする意見

⑦物産
・農水産物の安さやおいしさを実感している意見
・ブランド化を期待する意見

⑧子育て・医療
・子育てしやすいと感じているが、小児科等の医療体制の充実を望む意見
・子どものための施設整備を望む意見

子育て世代		
1	歴史・文化・自然	島原市には、山と海が同時に観れるという良い条件があるにも関わらず、住んでいると慣れてしまい実感がない。
		1時間圏内に、ゴルフ場（市外含）が豊富にある。全国的にも珍しいと思う。
2	にぎわい・暮らし	プールに連れていく場合、年齢によっては保護者も一緒にプールに入る必要があるため、改善してほしい。
		市内に海水浴場はなく、海で遊ぶといった習慣がない。また、海がきれいでない。
		雨の日に遊ぶ場所がなく、買い物がてら長崎に行くこともある。例：ココウォーク内のココキッズ
		熊本の動植物園が地震の影響で閉鎖しているため、近くで触れ合うような場所はないと思う。（最近通常営業に戻ったみたいだが、震災の影響で熊本方面に行く機会は減っている）
		バイオパークなど、市外にしか動物を観に行ける場所はない。
		市内で購入できないものがあるので、その場合はインターネットで購入することが多い。
		日用品は、基本市内で購入できる。ただし、商業用品（服・靴・スポーツ用品等）を購入しようと思うと、諫早・長崎・熊本あたりで購入する。
		車いすで利用できるトイレが必要。車いす利用可でも、介助者が入れないトイレもあるので改善が必要。
		子どもだけで利用できる、子供専用トイレの設置があれば良い。
		夜に遊ぶ場所がカラオケぐらいしかない。若者、子供にとっては遊び場が少ない。
		道が狭く離合が難しい箇所が多いように感じる。また一方通行道路も多い。
		地域振興券みたいな商品券を毎年1回発行してほしい。
		今更映画館が欲しいとは言わないが、交通アクセスを良くしてもらいたい。例：長崎まで1時間30分→40分、最低でも1時間
		映画館を誘致してほしい。映画を観るだけで、長崎に行く必要があり1日がかりになる。
3	若者定着	働く場（大企業）がない。若者が帰って来るための魅力が足りない。
4	情報発信	島原市はアピール下手。上手にPRすべき。
		何でもいいのでどれか一つ魅力的で特色あるものをアピールしてもらいたい。
5	公共交通	鉄道・バスの運賃が高く、便数が少なくて困る。
6	地域のつながり	近所の高齢者の方々ともふれあい、ゆっくり座って話せる場所がほしい。
7	物産	魚は、他県で食べた後に比べると地元のものはおいしいと感じる。
		市内の野菜は安くておいしいので、よそから来た友人家族は大量に買って帰っている。
8	子育て・医療	がまだすドームができたが、規模が小さく、面積も狭い。男の子は満たされないと思う。小学生も遊ぶため、小さい子が危ない場面に遭遇することがある。
		昔は、川で遊んでいたが、今は親も連れて行かない、禁止している家庭が多い。最近は、外で遊ばず家でゲームをしている家庭も多い。
		わかくさ保育園では、園内に牧場等が有り、動物を飼っているため、園児はたくさんの動物と触れ合えている。
		有明の森フラワー公園にダチョウがいるが、小さい子は餌を投げても柵の中まで届かない。
		小さい子にはウサギ等の小動物と触れ合える機会があればと思う。
		小体連がなくなったり、卒業証書の筒をなくすなど、教育費を削減されているように感じる。子どもたちの才能を伸ばすような教育環境が必要であり、子供のためには費用をかけるべき。
		安心して授乳できる場所がない。
		義務教育期間に係る費用については無料にしてもらいたい。例：教科書、各種道具、制服・体操服等
		ラグビーワールドカップがあるので、子供たちも参加できる行事等を考えてほしい。
		現在の小児科は数が少なく、夜間対応をしてくれるのは1箇所しかなく不安である。
		島原病院で休日診療を行っているが、かかりつけ医となると夜間も行っている水田小児科という家庭がほとんどである。
		耳鼻科の数も少なく、諫早まで通っている家庭もたくさんある。

		子どもにやさしいまちであってほしい。
		空き家を利用して、だれでも利用できる寺子屋の設置（定年退職された教職の方々に協力してもらい）ができないか。
		子育て支援センターは、園入所の方が利用するイメージがある。だれでも利用できる施設がほしい。
		空き家を利用した、子ども食堂の設置（元調理師の方等の協力を得て地産池消のものを使って）が必要。子どもの貧困を目の当たりにすることがあった。設置は必要だと思う。
		福祉医療費助成制度（小中学生）について、償還払いのため手続きが面倒で、助成を申請しない人もいる。乳児医療制度（未就学児）のように、現物給付にしてほしい。
		１人目出産後になかなか２人目ができないという話をよく聞く。子どもを産みたいのに不妊治療費を考えて断念する人もいる。現在の助成額（最大10万円）では足りない。
		すこやか赤ちゃん券の対象が2歳までだが、対象期間を3歳前後まで延ばしてほしい。
		オムツはそんなに簡単に外れるものでもないし、保育園に通うようになると新たにオムツが必要となる。サイズが大きくなるにつれて枚数が少なくなる。
		園によっては少しの量でもオムツを交換することがあるため。ベビー服も赤ちゃんに関する物なので対象商品にしてもらいたい。

高校生		
1	歴史・文化・自然	海水浴場をきれいに整備する。海水浴で観光客の増加をはかる。
		湧水がおいしい。
		自然が身近にある。
2	にぎわい・暮らし	映画は長崎まで観に行っている。ラウンドワンなどの施設があるといい。
		湧水を利用した遊べるものがあるといい。
		島原は今のままが程よくてよい。あまりにも高度に成長すると島原感がなくなる。今のままが丁度いいのではと思う。
		災害に対する意識が高い。
		武家屋敷がある。
		内海のため津波の心配はない。
		都会並みの犯罪に巻き込まれる心配がない。
		商業施設（ココウォーク等）が無く、若者の遊び場がない。映画館、スターバックス、流行の洋服等が欲しい。
		島原図書館に個人スペースがない。
		普段は、イオンのプリクラやカラオケぐらいしか遊ぶところがない。
		地元以外では長崎に行くことが多い。熊本は地震があったため、怖い。
		暮らしやすいと感じている。日常的に近所の方との触れ合いもあり、良い環境だと思う。
		島商ップの実習では多くの来店があり、地域に活気があると感じた。
		こんな田舎に来る人はいないと思う。
		森岳商店街を活かす。昔ながらの町並みを維持して、伝統的な遊びができる場として外国人にも魅力を感じてもらえるようにする。
		人が少ない。移動手段が少ない。島鉄の運賃が高い（日本一）。
		お年寄りが多い。
		島原は家からすぐ車で行ける。都会は徒歩が多い。
		もっとにぎやかであればいいとは思うが、現状、暮らしやすいし、不便はない。
		今（高校生の時）は、にぎやかで楽しい場所がほしいと思うが、10年後にほしいというわけではない。
		スポーツ施設が充実している
		交通の便が悪いので、物流を伴う企業を島原半島へ誘致出来ないのではないか。
		災害の際、避難所等がよく分からないため、避難施設の充実、場所の周知をして欲しい。
		交通の利便性向上。（島鉄等公共交通の充実・島原道路の早期完成）
		商業施設（ココウォーク等）を誘致し、流行物を入手できる環境づくり。
		安定した収入も大事だが、何より働きやすい企業の誘致や地元企業の処遇改善が必要。
		駅周辺に商業施設（ココウォーク等）があれば利便性が高い。
		キャッチフレーズには「明るい」「楽しい」「歴史」などのキーワードを盛り込んで欲しい。
		若者が少ない。中央高校は3年生より1年生の人数が少ない。
		県外に就職したい。親からも外にでなさいと言われている。島原が嫌いで出ていきたいのではない。あくまで外への好奇心。
		親元を離れるのは不安だが、就職して今まで金銭的に迷惑をかけてきたので、少しでも仕送りがしたい。
		自分としては、県外に出て就職したいが、親が許してくれない。島原内で建築関係の公務員を目指すのもあり。
		島原市に働き口がないため。女子の受け入れが少ない。

3	若者定着	島原は嫌いではないが、県外で就職したい。
		島原は働き口が少ない。
		田舎では給料が少ない。（民間）
		大学を卒業して農業を新規でするために帰ってくるが島原に土地や場所があるかが心配。（なければ近隣市でやりたい）
		看護師を目指しているが都会の方が給料が高いため戻ってこないつもり。
		教師になって地元に戻ってきたい。
		市内に大学を作ると若い人が多く住むことになる。大学だけではなく、卒業後の職場も作ると人が外に出ていかず定着しやすいと思う。
		将来帰って来たいとは思わない。自分は医療の道に進みたいと考えているため、高い水準の環境の中で仕事をしたいという思いがある。
		島原での就職先は多いと思う。学校に求人情報が届く。
		島原に大学があれば通うかもしれない。島原に残る選択肢として大学がない。
		就職、就学合同説明会（復興アリーナ）に参加したが、島原市内に働きやすく安定した収入を得られる企業が無いように感じる。
		島原市内に専門学校（スポーツ・ブライダル・公務員・情報等）の誘致。（自宅から通学できれば、県外に進学は考えない）
4	情報発信	人が集まるイベントをしたらどうか。
		近くに世界遺産もあり、来たいと思っている人は多いと思う。
		田舎だからこそ都市にはないものがあり、来たい人はいると思う。
		田舎らしさを大切にする。今あるものを大切にすることで、結果的によそにはない島原ならではのものが残り、都市部の人に魅力的だと思ってもらえる街になると思う。
		一方的な公演会ではなく、一緒に考えるようなイベントがいいと思う。
		スタンプラリーで宝探しのようなものもいい。（体験型のイベント）
		ジオパークなど他の地域に無い特色がある。
		島原城など観光施設の整備充実を進める。
5	公共交通	公共交通機関の便が少ない。バスは半時間に1本、1時間に1本の場合もある。
		遊ぼうと思うが、公共交通機関の便が悪いので遊べない。時間をいつも気にしていないといけないから遊んだ気になれない。
		島鉄の便数を増やしてほしい。
		改札を機械（ICカード）化すれば、人件費もかからなくなり効率的だと思う。改札を人の手作業でやっているのが、よそにはなく良いと思う。
		車両の数を増やしてほしい。
		通学に際し、公共交通機関の利便性が悪い。公共交通機関（島鉄路線バス）もあるが、他校生徒・一般客も乗車することから、乗れない可能性があるため利用しない。
6	地域のつながり	地域の人の人柄がいい。（あいさつを交わしてくれる）
7	物産	野菜・魚がおいしい。
		新鮮な野菜が栽培できるし、販売価格も安価である。
		野菜他、島原市で、ネームバリューがあるものをブランド化する。農業高校では、いちご（あまおう）の品種改良種の実験を進めている。
8	子育て・医療	小児科が少ないため子どもができても心配。
		第2子の保育料無料化は将来子育てをする際、魅力的に思う。

（高校生）

地区別代表者

1	歴史・文化・自然	文化・歴史、スポーツが大事。
		（安中地区は）災害を語り継ぐことが必要。
		市の歴史。（薬草園や殿さまロード）
		宇土出口・焼山の水が飲めないので飲めるように（肥料等をかけすぎでは？）→きれいな水を子どもへ残したい。
		自然のままで勝負だ！都会には人工的に作ったものではかなわない。
		安中には炭酸水の冷泉があったことなど、温泉や水道の歴史がある。400年の歴史がある。
		海・山・川と自然は多い（近い）が案内が少ない。
		島原市の景色・景観はどこにも負けないぐらいきれいだと思う、ただ、島原市街と海を一望できる場所はココというポイントがないのが残念。
		島原市民には郷土愛がある。
		伝統を守っていくこと。
2	にぎわい・暮らし	島原は暮らしやすいが、生活しにくい。閉鎖的なところがある。
		人柄が良い。
		フェリーに乗ってくると、島原はきれい。反面、車で来るとさびしくなる。
		口之津方面から普賢岳方面を見るときれい。女性の襟足みたい。
		人口が減っても幸せ実感度は下がらないようにしてほしい。
		企業誘致も必要。
		白土湖を泳げるように。白土湖をプール（人工的）にし、泳ぐ。
		スポーツ施設が多く有る。整備をもう少しきれいにしてほしい。
		合併したことで印象が薄くなった。島原市と半島他市の違いがない、むしろ薄い印象。
		商店街や小さな小売店など買い物をするところの充実。（大型店が無くなると買い物難民がでる）
		新しい施設(お店)ができても続かない。（人口や若い人がいない）
		農業は発展しそうだが、漁業で食べていくのは難しいと思う。
		住むには不便が少ない。
		散歩していたら、観光客に声を掛けられて交流があった。
		心の豊かさを大事にしたい。
		のんびりした雰囲気、現状を維持していく。
4	情報発信	食べ物に関する情報発信がいちばんだめだ。
		島原にいる人が気づいていない良さが多く、発信できていない。
		小・中学生のスポーツ関係で島原へ来た場合、宿泊費等を安くするべきではないだろうか。
		潮干狩り等を活用した企画。（県外向け）
		すくいを活用した企画。（県外向け）実際すくいを活用したイベントがあるがもっと県外へアピールする。
		駐車場無料は魅力。
		海や自然を活かしたものを活用し、県外へPRする。

		都市部では体験できないことを提供する。併せて、駐車場も無料であること等も周知する。例）潮干狩り、白土湖を活用したイベント等。
		市内には、まだ観光マップに載っていない穴場や歴史のある小さな湧水が多く有って、知らなかった湧水を発見する楽しみがある。（探検・冒険）
		湧水の歴史やポイントを紹介できる人、地図などもっと発信してもらいたい。
		イベントがある時に宿泊所・駐車場が少ない。
		フェリーや汽車(電車)などアクセス方法は幾つもある。
6	地域のつながり	地域ぐるみで子育てをする環境を作っていくことが必要。
		町内会に若手がいない、入会しない。イベント、新規事業（お店）ができない、続かない。年寄をどう活かしていくか。市営住宅の参加率が低い。
		向こう三軒両隣を作っていってもらいたい。
		人との触れ合いコミュニケーション、付随して老人会やPTAと協力して、地域行事を残していきたい。（餅つきなど）
		八幡様の御神輿(現在担い手がいない)。旗振り役が必要
7	物産	食べ物がおいしい。（かんざらし、具雑煮など）
		野菜など食料が安い。
		島原の農作物は素晴らしいものだが、農協などの人出を借りなければ収穫ができないので順番待ちになっている。せっかく良い作物ができても出荷できない状況。
		地物の食材は自慢できる(がんばなど)、もっと強く押し出したほうがいい。地域ブランドができるといい。
8	子育て・医療	子育て支援は充実していると感じるが、病気等のときの対応が気がかり。

（地区別代表者）

移住者		
1	歴史・文化・自然	精霊流し、七万石踊り。
		島原だけではなく、半島全体の文化力の底上げ。
2	にぎわい・暮らし	生活に必要なスーパーなど充実しており、また自然も身近にある。
		水道代が安く、こどもがプール遊びをする時に思いっきり水が使える。
		餅つきをしたり、自分たちで収穫した作物を調理して食べたり、季節の移ろいを肌で感じられる体験がタダでできる環境は都会にはない。
		「島原って何も無いよね」がネタになっている。
		「島原をこうしよう！」「島原をこうしていきたい！」という考えの人があまりいない。
		『モノ』を見つめ直すことも大事だが、『人』を育てることも大事。『人』が資源になる。
		市民の島原市に対するプライドを高めていく必要があるのではないか。
		島原に合う人だけを受け入れるのは困難。島原の人にもっと移住者を受け入れる寛容さが求められるのではないか。
		もともと島原というまちはほとんど移住者によって作り上げられた。受け入れられるはず。
		島原城、商店街周辺を活性化させて欲しい。（島原城築城400周年もあるので）
		『観光』と『産業』をうまく掛け合わせたまちづくりが必要ではないか。
		新しく何かを作るのはお金がかかるので、今あるものを見つめて、それを深く掘り下げて欲しい。
		城下町が栄えていた時代に遡ったまちづくりをして欲しい。
		普通は、産業が衰退していっているところは、住民の幸福度が低いものだが、島原は逆である。
		移住者が島原に来ることで、島原市民に何かしら恩恵があったり、移住者にもメリットがあるような仕組みを作って欲しい。
		子だけではなく、孫までも住み続けて欲しいまちにして欲しい。
		移住するうえで一番不安なことは経済面で、都会から田舎に来ると、どうしても給料が下がるので、生活していけるのか不安に思ってしまう。
		仕事や島原での生活の見通しを立ててくれるような人、島原での生活のスタートを一緒に切ってくれる人の存在が欲しい。
4	情報発信	良い所と悪い所は表裏一体であって、人によって見方・評価が違うので、「どういう人だったら島原に魅力を感じるのか」を考えてはどうか。
		「〇〇好きな人を呼ぼう」→「その人が魅力を感じるような島原の良い所は？」という視点で考えてはどうか。
		移住者を呼び込むためには、ターゲットを決める。（子育て世代など）
		駐車場が広い、無料で駐車できるところが多い。（観光地としての強み）
		熊本に船に乗って30分で行ける。福岡までも船で行ける。
		都会だと自然を楽しむ場合、車等で1、2時間かけていくところを島原ではすぐ行ける場所にある。
		心ときめくポイントは人それぞれ。マニアックなところをついてみてはどうか。
		ちょっとしたところもSNSで発信してはどうか。響く人には響く。
		島原にしかない特別なものを見つけてPRを。
		佐賀県 みやき町の子育てページが非常に見やすい。システム的な所は先進地を参考にしながら、情報発信を上手にすべき。
		移住者へのサポート体制の充実も必要だと思う。
		観光パンフレットなどにもっと親切さを。
		島原に移住している人の声を発信してもらえれば、島原での生活がイメージしやすいし、移住者同士のコミュニティができるので嬉しい。

		島原の観光パンフレット等を見ていると、良いものはあるのに内容が薄い。
6	地域のつながり	公共の場でもベビーカーをたためと言われなかったり、優しい人たちが多い。
		都会での子育てはどうしても孤立しがちだけど、島原は子育てサークルが充実していて、そこでママ友が出来る。保育園に通う前の段階で集まれる場所が豊富。
		島原人で集まる傾向があるように感じる。
		地域で何かしようとする時に、関心を持たない人が多い。
		仲間が出来てくるとその土地での暮らしが楽しくなる。
		市民参加のまちづくりのための人材育成も必要だと思う。
		地域の人々の信頼関係や結びつき（ソーシャルキャピタル）を数値化してみたら今後のまちづくりに活かせるのではないか。
		シェアリングエコノミーの推進をして欲しい（つてが無い移住者は、物を気軽に借りられない。気軽に利用できるサービスが欲しい。）
8	子育て・医療	こどもの情緒を育てるうえでかけがえのない体験が島原ではできる。
		子育てしやすい環境。待機児童がいない、保護者が保育園を選べる立場にある、こども達が楽しめる遊び場がたくさんあるのは、都会には無い良い所。

（移住者）

第３回島原市市勢振興計画審議会資料

第７次島原市市勢振興計画策定の経緯
（平成３０年８月～平成３１年２月）

H30.8.20　第１回島原市市勢振興計画審議会
・委員委嘱、計画全般の説明、意見交換。

H30.9.8～9.25　市民アンケート実施
・ランダムに 3,000 通発送し 1,167 通の回答。（回収率 38.9%）

H30.9.21～10.10　現計画（第６次計画）の施策評価検証
・現計画の施策評価検証を市役所内で取りまとめ。

H30.11.12　第１回島原市市勢振興計画策定委員会
・市民アンケート結果及び現計画（第６次計画）の施策評価結果の報告、意見交換。

H30.11.19　第２回島原市市勢振興計画審議会
・市民アンケート結果及び現計画（第６次計画）の施策評価結果の報告、意見交換。

H30.12.27　まちづくり座談会に向けた職員ワークショップ
・まちづくり座談会に向けた市職員２２名によるワークショップ。

H31.1.10、1.11、1.15、1.16　まちづくり座談会
・子育て世代、高校生、地区別代表者、移住者と意見交換。

H31.2.13　第２回島原市市勢振興計画策定委員会
・まちづくり座談会の結果報告、第７次島原市市勢振興計画基本構想素案について審議。

H31.2.19　第３回島原市市勢振興計画審議会
・まちづくり座談会の結果報告、第７次島原市市勢振興計画基本構想素案について審議。

第３回島原市市勢振興計画審議会資料

第７次島原市市勢振興計画

基本構想

（2020 年度～2029 年度）

（素案）

（注）
・文中の「平成」表記については、新元号発表後は、新しい元号で表記します。
・本素案は、今後の基本計画の策定、市勢振興計画策定員会、市勢振興計画審議会、市議会の審議等に応じて変更されることもあります。
・冊子のレイアウトに応じて、フォントの変更や図表・絵の挿入等があります。

島原市市長公室政策企画課

平成３１年２月

〔目　　次〕

第１編　序　　論 1
第１章　市勢振興計画策定にあたって 1
１　計画策定の目的 1
２　計画の位置づけと役割 2
３　計画の構成と計画期間 3
第２章　計画の基本的な視点 4
１　島原市の現在の姿 4
２　時代認識と本市に求められる取り組みの整理 9
第２編　基　本　構　想 13
第１章　将来の島原市について 13
１　まちづくりの基本理念 13
２　目指す将来像 14
第２章　基本目標 16
第３章　人口指標 18
第４章　施策体系（案） 19

第１編　序　　論

第１章　市勢振興計画策定にあたって

１　計画策定の目的

私たちのまち島原市（以下「本市」とします。）では、平成 22 年（2010）3 月に、平成 31 年度（2019）までを計画期間とする第 6 次島原市市勢振興計画を策定し、「有明海にひらく湧水あふれる火山と歴史の田園都市　島原」を将来像に掲げ、「島原半島の中心都市づくり」「交通・情報ネットワークづくり」「安全・安心な暮らしづくり」「特色ある産業づくり」「健康で誇り高く暮らせる『ひとづくり』重視の都市づくり」の 5 つを都市づくりビジョンとして定め、各分野の施策推進に努めてきました。

しかしながら、計画策定から 10 年が経過し、少子高齢化の進展、市民の意識・価値観の多様化、さらには地球規模での環境問題など、市内外を取り巻く社会経済情勢は著しく変化してきており、新たな発想で長期的な視野に立った制度や仕組みの再構築が求められています。

このような中で、今後さらに厳しさを増すことが予想される本市の財政状況等も勘案し、地域資源や魅力を生かし、持続可能なまちづくりを計画的に実現するために、「地方創生」に取り組むとともに、これからの時代にふさわしい、誇りの持てるまちづくりを進めていくことが必要です。

現在の第 6 次島原市市勢振興計画の計画期間が平成 31 年度（2019）までであることから、本市の目指す将来の姿とその実現のための政策をまとめ、さらなる市勢発展に結びつけていくために、新たなまちづくりの指針とした第 7 次島原市市勢振興計画（以下「本計画」とします。）を策定するものです。

２　計画の位置づけと役割

市勢振興計画は、本市を取り巻く様々な暮らしの課題を解決し、固有の魅力を高め、今後の市政運営の中長期的な方向性を示す本市のまちづくりの最も基本となる最上位の計画です。

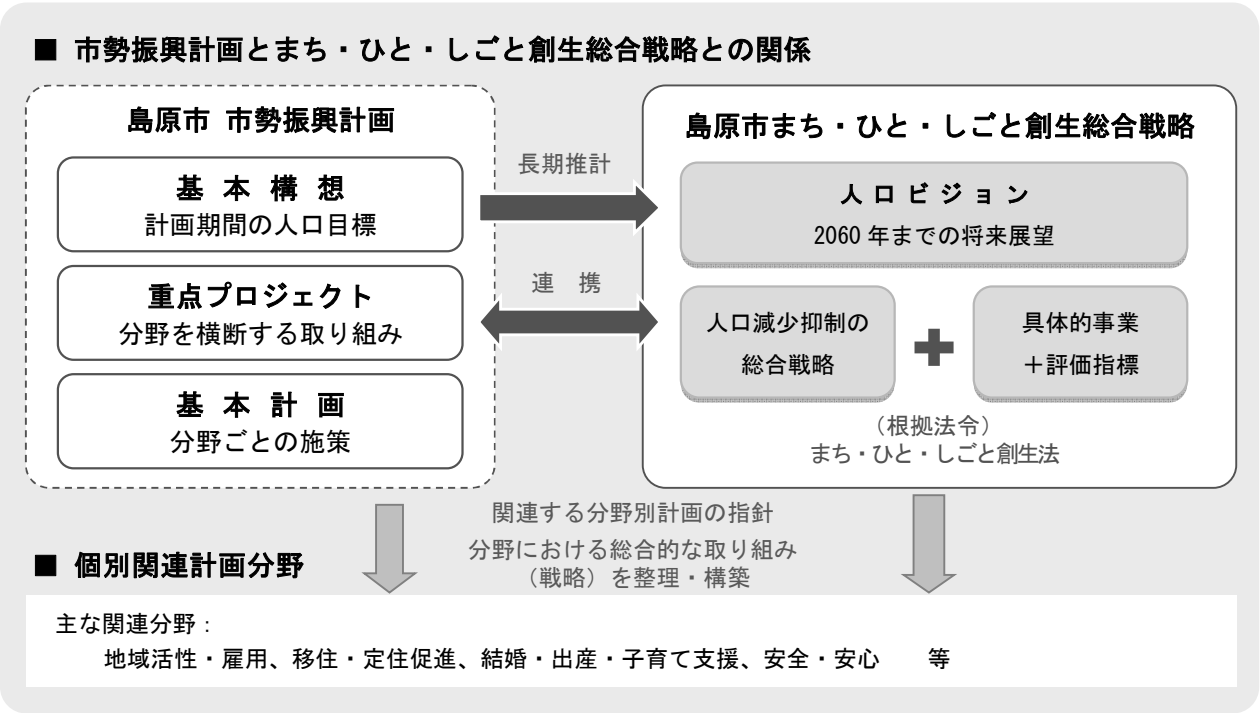
また、各分野における個別の計画や施策に方向性を与え、一体性を確保しながら、市の将来像の実現に向けて、多様な主体がまちづくりの方向とそれぞれの役割を理解し、市民の皆さん一人ひとりに寄り添い、ともに取り組んでいくための指針となるものです。

一方で、市ではこれまでも多くの計画を策定しています。これらの計画は、保健福祉、環境、生活基盤、行財政運営など、各分野における法制度の制定・改正や直面する課題などに対応するために、市政運営上、必要に応じて策定してきたものです。

したがって、各分野で策定する個別計画は、本計画で示す将来像と目標を実現するために社会情勢や制度改正に的確に対応する、より具体的な施策・事業計画と位置づけます。

なお、地方創生に向けて推進を図る「島原市人口ビジョン」、「島原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」については、本計画での取り組みと相互に連動した事業の推進を図ります。

図表　（参考）市勢振興計画とまち・ひと・しごと創生総合戦略との関係



３　計画の構成と計画期間

（１）計画の構成

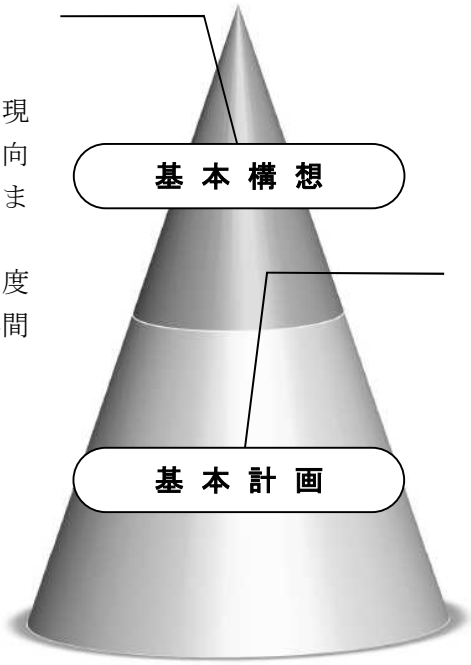
本計画は、「基本構想」、「基本計画」で構成されます。

図表　計画の構成

『 基 本 構 想 』
～ まちづくりの柱 ～

基本構想は、本市が将来実現したい姿を描き、その実現に向けたまちづくりの柱（分野別まちづくり方針）を示します。

計画期間は、平成 32 年度（2020）を初年度とする 10 年間の計画とします。



『 基 本 計 画 』
～ 将来像を実現する
施策の取りまとめ ～

基本構想に定めた将来像、まちづくりの柱を具体化するために、各分野にわたり、施策の目標や主要施策等を体系的に示すものです。

計画は、前期及び後期基本計画からなり、本計画では前期計画（平成 32 年度（2020）からの 5 年間での取り組み）を示します。

（２）計画期間

基本構想及び基本計画の計画期間は以下のとおりです。

図表　計画の構成

	平成32年度(2020)	33年度(2021)	34年度(2022)	35年度(2023)	36年度(2024)	37年度(2025)	38年度(2026)	39年度(2027)	40年度(2028)	41年度(2029)
基本構想	←→					←→				
基本計画	←→ 前期基本計画					←→ 後期基本計画				

※後期基本計画は、前期基本計画の検証や社会情勢を踏まえたうえで策定します。

第２章　計画の基本的な視点

１　島原市の現在の姿

（１）島原市の位置・地勢

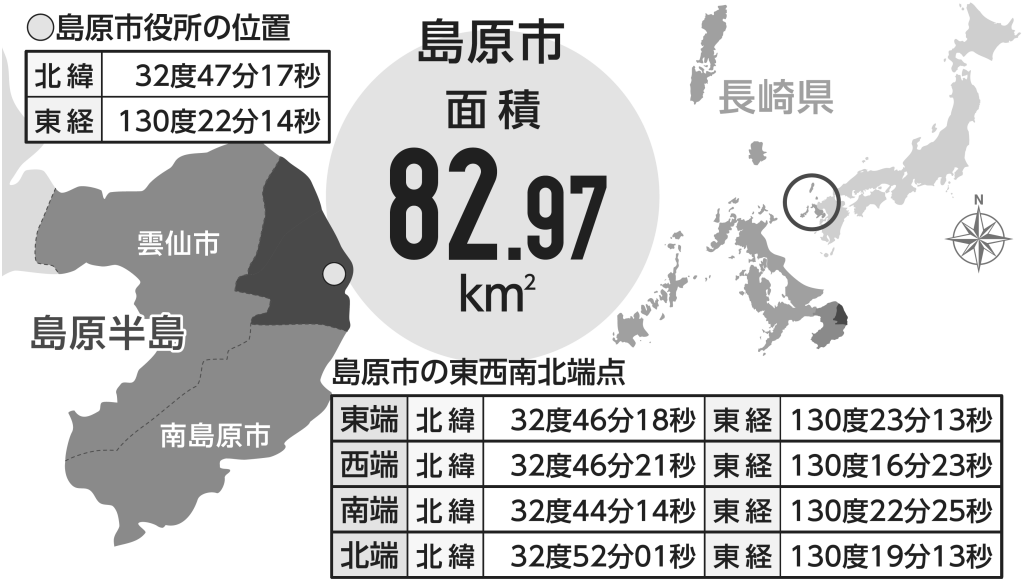
本市は、長崎県の南東部にある島原半島の東部に位置し、市域の北西は雲仙市、南は南島原市と接しています。面積は 82.97km^2 で、島原半島の約 18%を占めています。

中央部の眉山（標高 818.7m）を中心として東側の有明海へ伸びる傾斜地となっており、市域の北部から中央部にかけては、標高 1,483mの平成新山から有明海に向かって県下でも有数の田園地帯と市街地が広がっています。

眉山や普賢岳に象徴されるような火山地形は、崩壊や噴火により被害をもたらした反面、海岸沿いの美しい景観や「水の都」と呼ばれるように豊富な湧水の恵みをもたらしており、風光明媚な都市景観を形成しています。

また、本市の位置する島原半島は、国立公園に初めて指定された雲仙天草国立公園に含まれ、日本初の世界ジオパークに認定されるなど豊かな自然に恵まれています。

図表　島原市の位置・地勢



◎国土地理院 全国都道府県市区町村別面積調 H28.10.1現在

（※図表は仮置き）

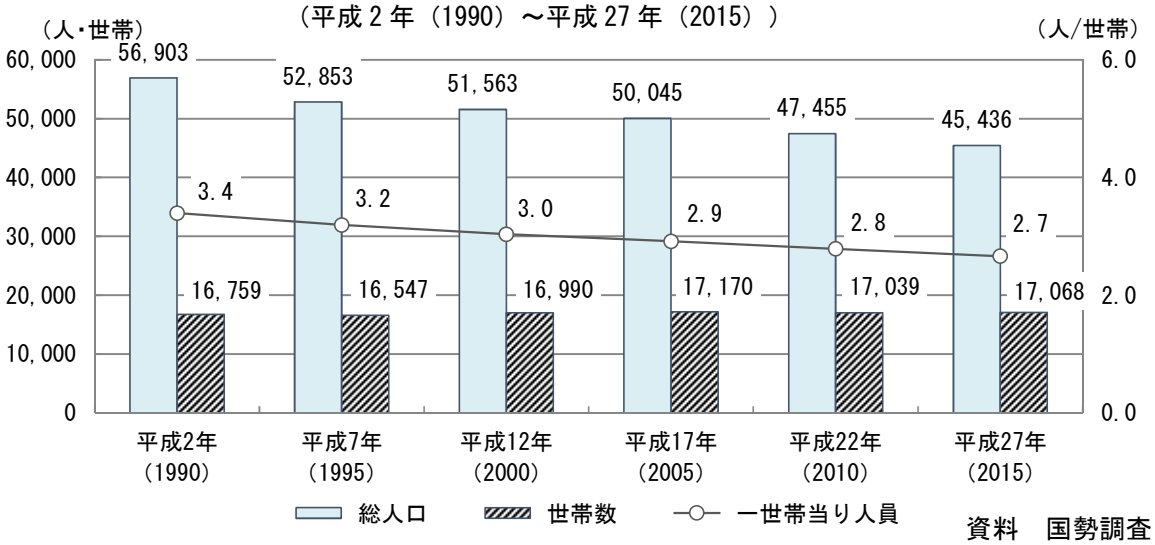
資料　島原市市勢要覧

（２）人口・世帯（総数）の推移

国勢調査による本市の総人口は減少傾向にあり、平成 27 年（2015）では、45,436 人、平成 17 年（2005）からの 10 年間で、4,609 人（年平均約 461 人）減少しています。

また、世帯数については平成 22 年（2010）に減少へ転じ、一世帯当たり人員は減少推移となっており、平成 27 年（2015）で 17,068 世帯、一世帯当たりの人員についても 2.7 人/世帯となっており、世帯規模は引き続き縮小しています。

図表　総人口・世帯数・一世帯当たり人員の推移
（平成 2 年（1990）～平成 27 年（2015））



資料　国勢調査

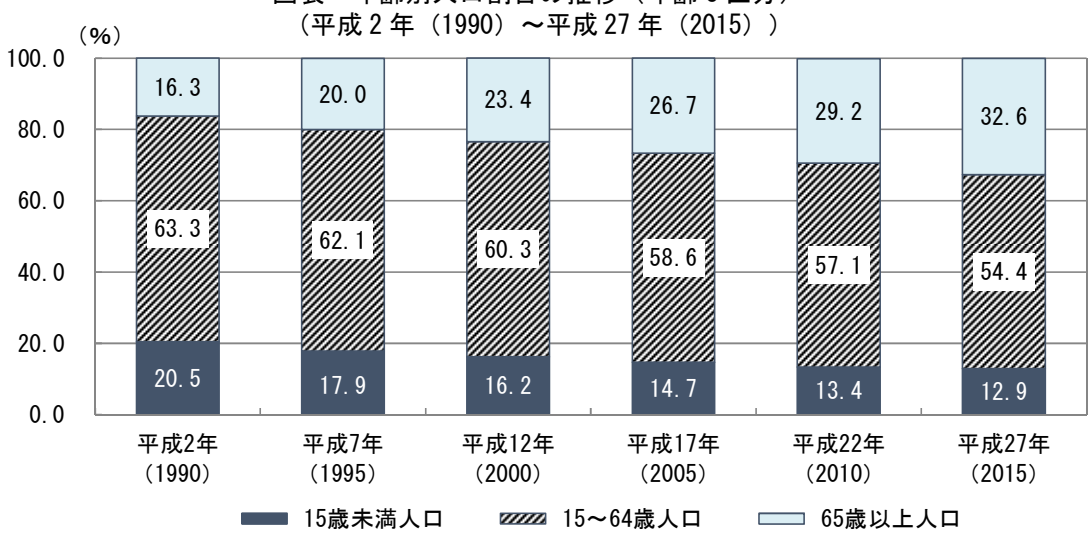
①　年齢別人口

国勢調査による年齢別（3 区分構成比）の推移をみると、15 歳未満人口と 15～64 歳人口は漸減する一方、65 歳以上人口は増加しています。

平成 2 年（1990）以降、平成 27 年（2015）までの間に 15 歳未満人口は 7.6 ポイント、15～64 歳人口は 8.9 ポイント減少しています。

一方で、65 歳以上人口は 16.3 ポイント増加しており、少子高齢化の進行がみられます。

図表　年齢別人口割合の推移（年齢 3 区分）
（平成 2 年（1990）～平成 27 年（2015））

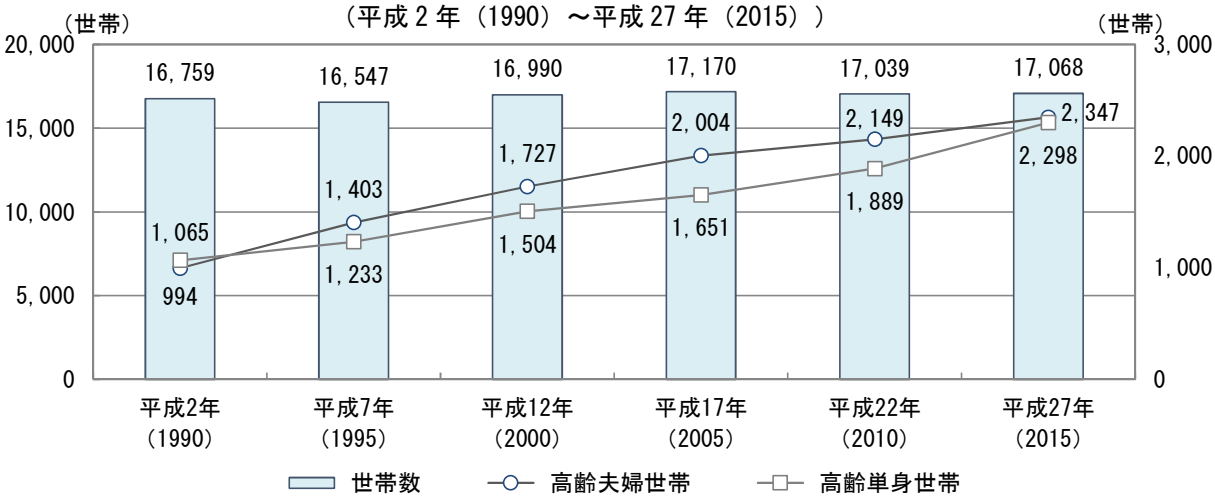


資料　国勢調査

② 世帯状況

国勢調査による世帯状況の推移をみると、世帯数が横ばいな状況の中で、高齢化の進行とともに、高齢夫婦世帯及び高齢者単身世帯は増加傾向にあります。

図表　世帯数・高齢夫婦世帯・高齢単身世帯の推移
（平成２年（1990）～平成 27 年（2015））



資料　国勢調査

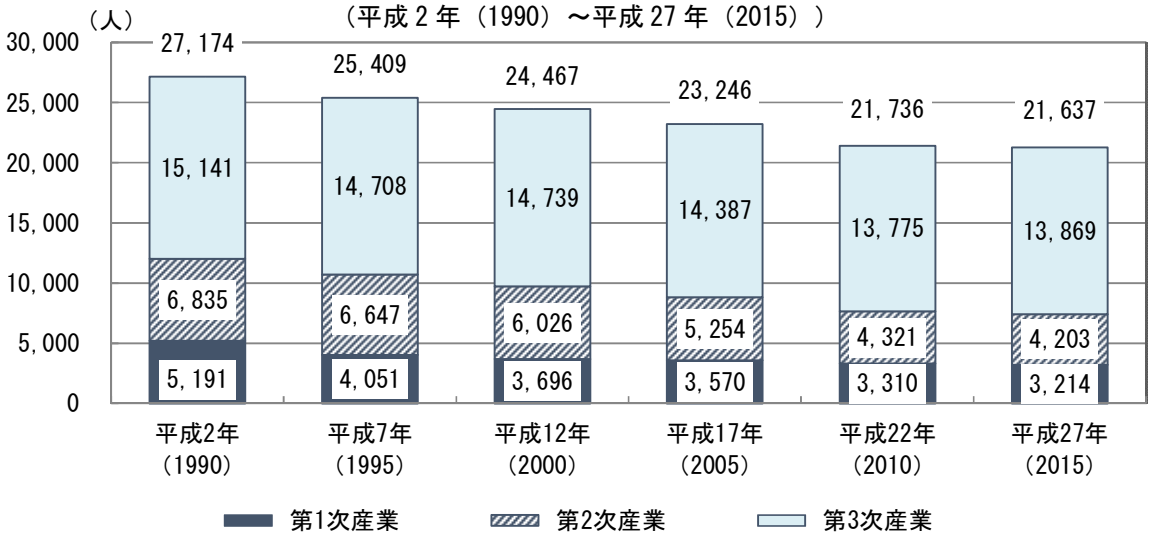
（３）産業・地域経済

就業構造

国勢調査による就業者総数は、平成２年（1990）以降減少しており、平成 27 年（2015）の就業者数は 21,637 人となっています。

また、就業構造別にみると、市内産業は第３次産業就業者が多くを占めており、市内すべての産業で就業者は減少傾向となっています。

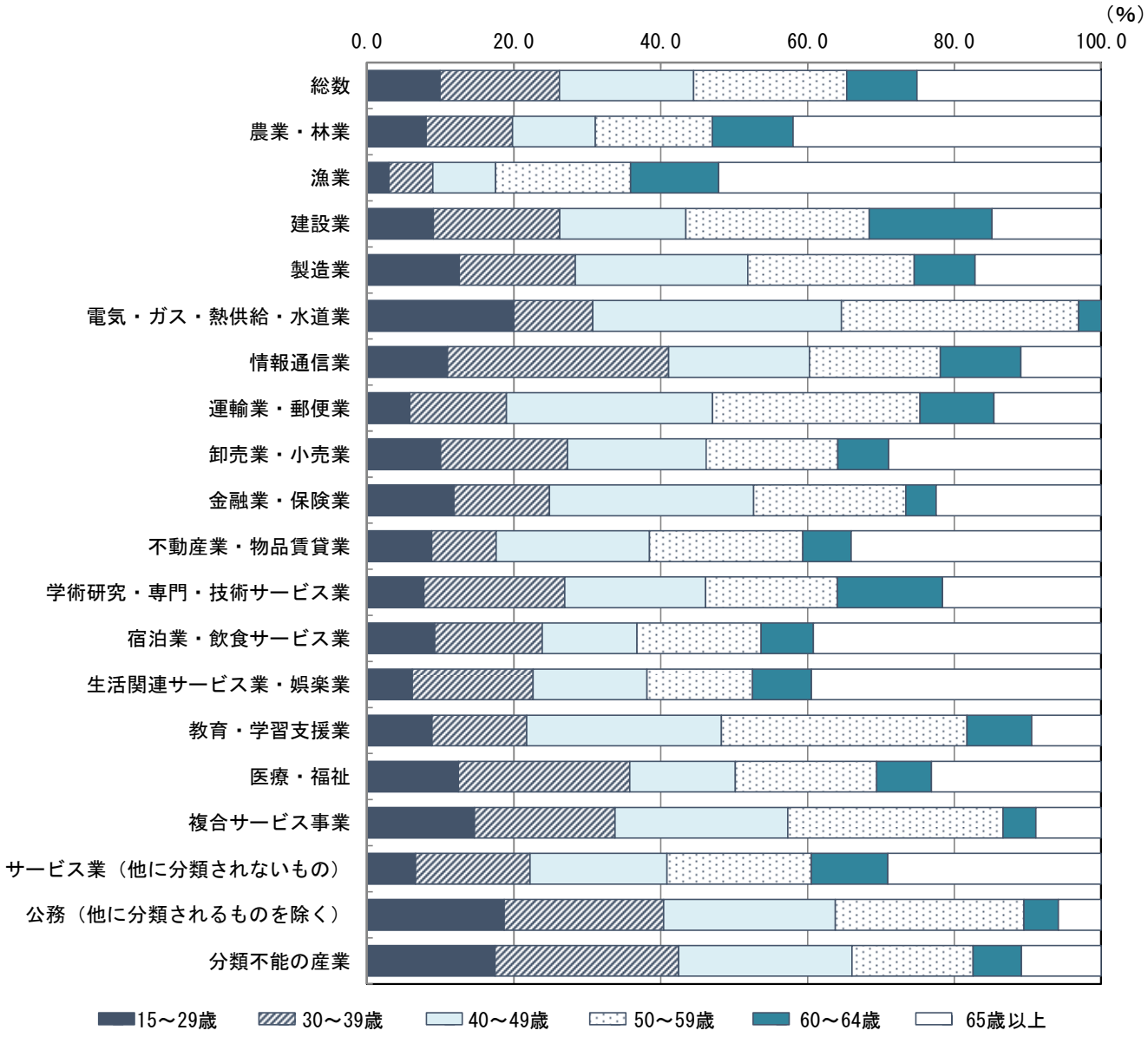
図表　産業構造の推移（年齢３区分）
（平成２年（1990）～平成 27 年（2015））



※ 就業者総数は、分類不能の産業を含めた合計となっています。　　資料　国勢調査

平成 27 年（2015）国勢調査による産業大分類別の年齢構成をみると、すべての産業で 40 歳未満の占める割合が半数以下となっており、将来において担い手不足が懸念されます。

図表　産業別（大分類）の年齢構成
（平成 27 年（2015））



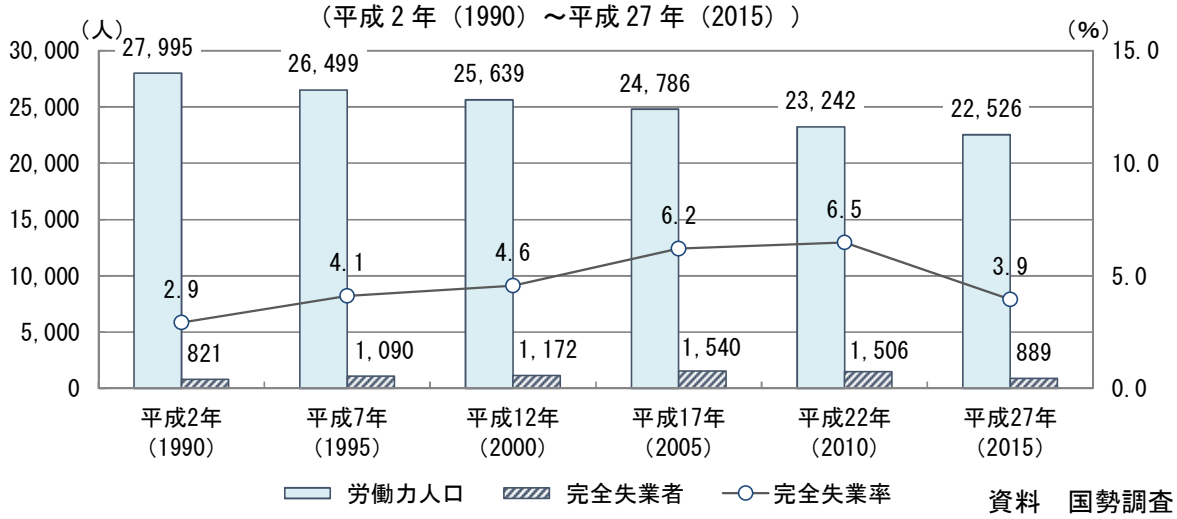
資料　国勢調査

② 労働力人口

国勢調査による労働力人口は、就業者数とともに減少傾向にあり、平成 27 年（2015）は 22,526 人となっています。

また、完全失業者数（率）は、平成 22 年（2010）をピークに減少し、平成 27 年（2015）の完全失業者は 889 人、完全失業率は 3.9%となっています。

図表　労働力人口・完全失業者数・完全失業率の推移
（平成 2 年（1990）～平成 27 年（2015））



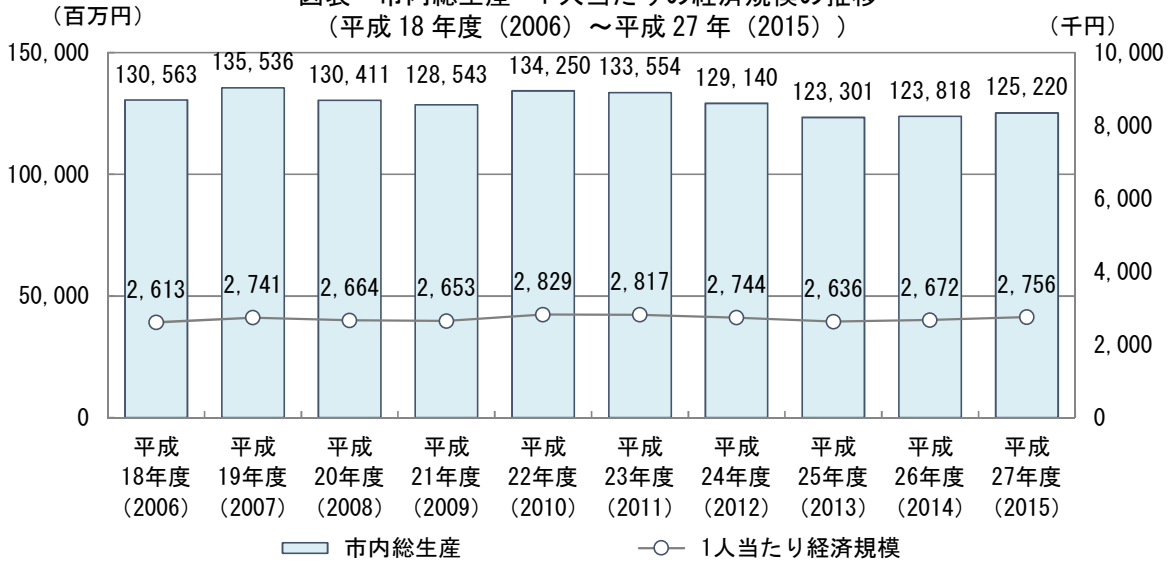
資料　国勢調査

③ 市内総生産

平成 18 年（2006）から平成 27 年（2015）の市町民経済計算における市内総生産の推移をみると、期間の市内総生産額の平均は 1,294 億円、1 人当たりの経済規模の平均は 271 万円となっています。

期間内は、平成 19 年度（2007 年度）がピークとなっており、平成 24 年（2012）以降、市内総生産額は 1,300 億円を下回って推移しています。

図表　市内総生産・1 人当たりの経済規模の推移
（平成 18 年度（2006）～平成 27 年（2015））



資料　長崎県市町民経済計算書（平成 27 年度）

２　時代認識と本市に求められる取り組みの整理

計画策定にあたり、社会動向や課題、展望を次の視点から捉え、本市に求められる取り組みを整理します。

（１）地方創生の時代

［ 社会の動向 ］

地方分権の潮流の中で、近年は地方創生に向けた取り組みが推進されるなど、これまで以上に地方の個性や活力が試される「地方創生の時代」にあって、より自立したまちづくりが求められています。

加えて、地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることにより、「地域共生社会」の実現を目指しています。

また、国においては、国から地方公共団体、または都道府県から市町村への事務・権限の移譲や、地方公共団体への義務付け・枠付けの緩和等、地域の自主性や自立性を高めるための改革を総合的に進めています。

［ 本市に求められる取り組み ］

○ 地域共生社会の実現に向けて、市民に最も身近な基礎自治体及び市民が行うまちづくりの主体として、積極的に参画し、地域課題の解決やコミュニティの充実を図る必要があります。

○ 今後も財政状況は一層厳しさを増してくるものと考えられるため、財政の健全化はもとより、行政の役割を検証しながら、持続可能な開発目標の理念、市民ニーズの変化を的確に捉え、効率的かつ持続可能な自治体運営を進めていく必要があります。

（２）人口減少、少子化、長寿社会の到来

［ 社会の動向 ］

わが国では本格的な人口減少社会が到来し、平均寿命の延びと少子化の進行により、高齢者の割合が増え続けています。

また、日常生活において支援を要する世帯が増加し、社会全体においては、社会保障などの負担がさらに増大することが見込まれており、人口減少、少子化、長寿社会の到来を見据えたまちづくりを一層進めることが求められています。

［ 本市に求められる取り組み ］

○ 国立社会保障･人口問題研究所による本市の将来人口の見通し（平成30年（2018）3月推計公表）は、2045年には、およそ36,980人と見込まれており、地域経済の縮小や労働力人口の減少、地域機能の低下など、人口構造や世帯構造の変化がもたらす課題に対し、地域全体で取り組んでいく必要があります。

（３）未来を担う子どもたちの成長

［ 社会の動向 ］

少子化が進行する中で、子どもを欲しいと思う人が、安心して子どもを産み育てることができるよう、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）をはじめ、働き方や男女の役割に係る慣習を見直すとともに、子どもを育てやすい環境づくりを進めることが重要となっています。

また、子どもの貧困問題の根絶や人権の尊重、安全の確保に取り組むとともに、学校教育においては、基礎学力の向上とともに、子どもの生きる力を育むための取り組みが求められます。

［ 本市に求められる取り組み ］

○ 出産、子育ての不安をなくし、安心して子育てができるよう、切れ目のない子育て支援の充実を図り、多様化する生活様式に対応した子育て環境づくりが求められます。

○ 子どもの健やかな成長とともに、その過程において、地域への愛着や社会感覚を身につけるなど、学校・地域・家庭が一体となって子どもを育成する環境づくりが必要となります。

（４）地域経済の変化

［ 社会の動向 ］

わが国の産業構造は、人工知能（ＡＩ）などをはじめとする技術革新、高度情報化、市場ニーズの多様化などを背景に、第 3 次産業の進展、※シェアリング・エコノミーのような新たな事業の拡大、企業の再編・整理、事業活動の再構築が進むなど、大きく転換しつつあります。

一方、地域産業においては、観光などの人々の新たな交流機会が広がっているほか、地域性を前面に出した商品やサービスが注目されているなど、新たな方向性も見え始めています。

［ 本市に求められる取り組み ］

○ 人口減少が進む中で、多くの産業分野で就業人口の減少、高齢化による担い手や後継者の育成が急務となっています。

○ 生産性の向上や 6 次産業化等による国際間・地域間競争へ対応した産業基盤の強化とともに、これからも地域で暮らすことができる生業として、地域産業を振興していくことが引き続き重要となっています。

○ 地域経済の活性化や賑わいの創出に向けてまちの魅力を市内外へ発信し、本市とつながりのある人材の拡大につなげていくことが求められます。

※シェアリング・エコノミー：
モノ・サービス・場所などを多くの人と共有、交換して利用する社会的な仕組みのこと。

（５）地球規模での環境にやさしい社会の構築

［ 社会の動向 ］

地球温暖化や生態系の崩壊、資源の枯渇など、地球的規模での環境問題が深刻化する中で、現在の自然環境を次世代へ継承していくために、行政や事業所の努力だけではなく、市民一人ひとりが環境への負荷の少ない社会へ向けて、暮らしを見直し、考え、行動していくことが求められます。

［ 本市に求められる取り組み ］

○ 本市の豊かな自然は、人々にやすらぎとうるおいをもたらすとともに、主要産業である第 1 次産業においては、その恩恵によって成り立っているという認識のもと、自然環境や景観を保全・継承する取り組みを引き続き進める必要があります。

（６）安全安心に対する関心の高まり

［ 社会の動向 ］

近年、国内では大規模な自然災害が多発しており、防災・減災に向けた取り組みが求められているほか、日常生活においては、犯罪、食品の安全、さらには健康を脅かす感染症の発生等を背景に、暮らしの安全安心に対する関心が高まっています。

また、わが国では豊かな経済成長を背景に、道路・橋梁、水道施設など様々なインフラ整備を図ってきましたが、今後は施設の老朽化が加速的に増大すると想定されており、その対応が求められます。

［ 本市に求められる取り組み ］

○ 過去の教訓を生かし、本市で想定される様々な自然災害に対し、人的被害を限りなくゼロに近づける取り組みや被害を最小化し早期復興を可能とするための減災対策が、重要となります。

○ 犯罪等に関しては比較的安全な地域である一方で、高齢化に伴う歩行者、運転者の交通安全対策、消費者被害等は、今後さらに重要性が高まることが考えられます。

○ これまでに整備された公共施設をはじめとする社会資本の老朽化に比例して、維持管理・更新コストの占める割合が加速的に増大すると想定され、今後は限られた予算の中で、効率的な整備へと移行していくことが求められます。

（７）市民の幸福感、価値観の多様化

［ 社会の動向 ］

経済力や、それに伴う生活水準の高まりから価値観や暮らし方の多様化が進む中で、市民の幸福感や地方への移住・定住、地域の歴史、自然への関心、ボランティア、文化、スポーツ活動など、「心の豊かさ」を重視する意向も高まっています。

また、教育、仕事、老後といった単線型の生き方ではなく、人生のうちに学びと仕事などを何度も経験する「人生 100 年時代」が到来し、人々の生き方や社会全体が大きく変化するといわれています。

そのため、多様化する個々の暮らし方を尊重しながら、一人ひとりの個性や能力が生かされ、その個性や能力を地域社会にも反映し、社会全体として質的な豊かさを実現できるような仕組みづくりが求められています。

［ 本市に求められる取り組み ］

○ 地域のつながりや多様な関わりを重視する市民の考え方に対応し、市民ニーズの変化などを的確に捉えながら、新しい時代に対応した地域づくりを進めていくことが必要です。

○ 「人生 100 年時代」を迎えるにあたり、地域づくりや働き方においては、高齢者の知恵と技能を生かしていくための視点が求められます。

第２編　基 本 構 想

第１章　将来の島原市について

１　まちづくりの基本理念

本市では、これまで先人によって、発展の礎となってきた自然の恩恵や生業を築いてきた知恵や技術が、地域の資源、特性として、人々の暮らしの中に連綿と受け継がれています。

新たなまちづくりでは、「ひと」、「まち」、「暮らし」をテーマに、島原市が直面している様々な“今日（いま）”と向き合い、支えながら、“明日（みらい）”へ受け継ぐ魅力を創り、育むことをまちづくりの基本的な考え方（基本理念）として位置づけます。

［ 島原市の『今日（いま）を支え、明日（みらい）を創るまちづくり』に向けて ］

（基本理念に込められた島原市のまちづくりの考え方）

◎「ひと」と「暮らし」のなかで生まれるつながりを大切にし、互いの“今日（いま）”を支え合いながら、“明日（みらい）”を担う「ひと」を育てます。そして、「まち」の魅力を資源として、「ひと」と「まち」の魅力をつなぐ、様々な関わりや交流を生み出していきます。

◎「暮らし」を支える生業を「まち」に定着させ、「ひと」との交流や「まち」のなかに賑わいや快適な暮らしを生み出す基盤を備えます。

◎「まち」、「ひと」づくりによって、「暮らし」が安定し、将来にわたって安全安心なこれからも暮らし続けたい、訪れてみたい、魅力あふれるまちを市民のみなさんとともに創ります。

２　目指す将来像

豊かな自然・歴史・文化につつまれながら、住み慣れた地域で健やかに安心して暮らせること、子どもたちがのびのびと成長してくこと、人とのつながりを築いていくことは、これまで受け継がれてきた地域の資源や特性と同じくして、私たち市民の誇りであり、まちの魅力でもあります。

こうしたまちの魅力や誇りはすべて島原で育まれる「島原らしさ」であり、今後も持続的に未来へ継承していくためには、市民生活を支える安定した社会基盤のもとで、多くの市民が生涯を通じて個性や能力を発揮し、暮らしやすさや幸せを実感できる希望の持てるまちづくりを進め、さらに発展していくことが求められます。

これからも市民の皆さんと一緒に、「今日（いま）を支え、明日（みらい）を創るまちづくり」の基本理念のもと、「島原らしさ」を創り磨き上げていき、未来へつなげていきたいという想いから、目指す将来像を『未来へつなぐ島原らしさ』とし、暮らし続けたい、訪れてみたい、魅力あふれるまちを目指します。

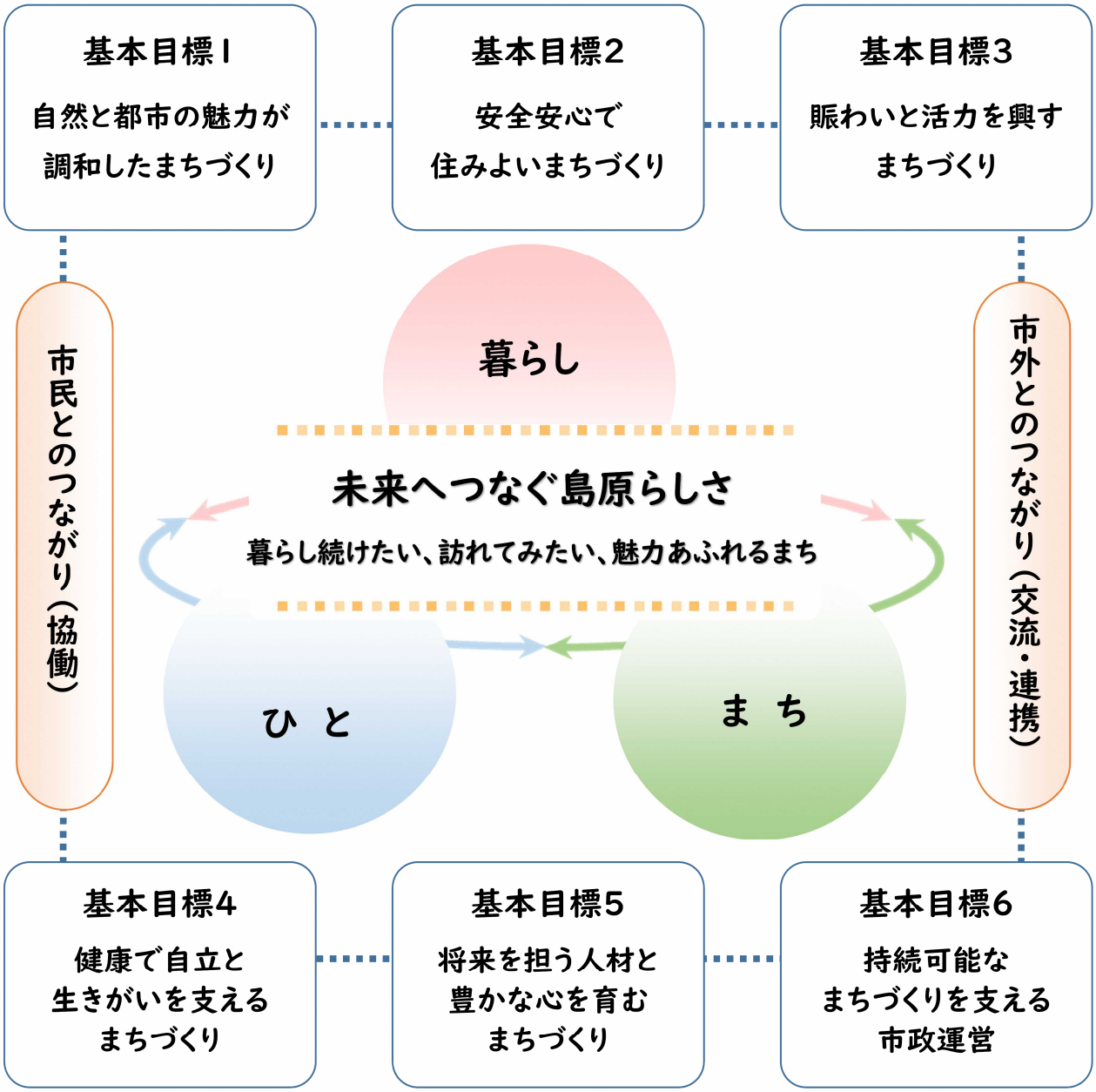
（目指す将来像）

未来へつなぐ島原らしさ

暮らし続けたい、訪れてみたい、魅力あふれるまち

なお、新たなまちづくりでは、下図に示すように各分野で、基本理念である「ひと」、「まち」、「暮らし」を念頭におきながら、市内外とのつながりを意識した施策を推進します。

図表　将来像の実現に向けたまちづくりのイメージ



（参考）将来像候補案

一人ひとりの暮らし、幸せを未来へつなぐまち　島原
雄大な自然と歴史につつまれ、住み継がれるまち　島原
暮らしを彩り、魅力と誇りを紡ぐまち　島原
笑顔でつながる、選ばれる、愛されるまち　島原
暮らしたい、働きたい、訪れたい　魅力と希望に出会うまち　島原
みんなの暮らしに「ちょうど良い」まち　島原

第２章　基本目標

将来像に掲げるまちを実現していくために、分野ごとの取り組み方針として、次の６つをまちづくりの基本目標とします。

基本目標１：自然と歴史、都市の魅力が調和したまちづくり

人口減少や高齢化が進む中においても、都市の活力と市民の生活利便性を維持し、いつまでも暮らしやすいまちを実現するため、都市全体の構造を見渡しながら、生活サービス施設等が集積し、公共交通により誰もが容易にアクセスし、サービスを享受できるコンパクトなまちづくりを進めます。

また、市内外を円滑に結ぶ道路交通網の整備を計画的に進めるとともに、豊かな自然環境や城下町の景観等を保全し、自然と都市の魅力が調和したまちづくりを目指します。

基本目標２：安全安心で住みよいまちづくり

ごみの減量化や資源化等を推進することにより環境にやさしいまちづくりを進めるとともに、防災、防犯、消防体制の整備等、災害や犯罪への備えを強化し、世代を問わず多くの市民にとって安全安心に暮らせる住みよいまちを目指します。

また、地域や関係機関等と連携を図りながら、移住希望者が希望を持って移り住み定住に結びつくよう、きめ細かな支援体制を構築することで人口減少に歯止めをかけ、本市への新しい人の流れを創り出します。

基本目標３：賑わいと活力を興すまちづくり

地域産業の発展、人口定住に結びつく持続可能な地域経済活動の実現に向けて、担い手の確保、育成とともに、本市の基幹産業である農業、水産業を中心に、様々な地域資源や物産を市外へ発信し、流通を促進するほか、観光資源の活用、中小企業の経営の安定化に取り組み、本市全体の産業振興を目指します。

また、若い世代をはじめとした市民の経済力の向上や、地域産業とのつながりを踏まえた新たな産業、働きがいのある雇用の創出を図り、賑わいと活力を興すまちづくりを目指します。

基本目標４：健康で自立と生きがいを支えるまちづくり

保健、医療、福祉等の連携により、市民が安心して子どもを産み育てられ、健康に暮らすことのできる心と体を育みます。

また、地域で暮らすうえで支援の必要な高齢者や障害のある人が地域で自立し、生きがいを感じながら暮らし続けられる支援体制を構築するとともに、様々な世代、立場の人々が互いに支え合い、人と人とのつながりを大切にした共生社会の実現を目指します。

基本目標５：将来を担う人材と豊かな心を育むまちづくり

本市の将来を担う人材が一人ひとりの個性と能力を伸ばし、生きる力と豊かな人間性の形成につながるよう、学校教育及び生涯教育の充実に努めるとともに、城下町としての歴史文化を積極的に活用し、ふるさと島原に対する誇りと愛着を育みます。

また、市民の主体的な参加意欲を高め、まちや暮らしの様々な分野で活躍する人材が育つまちを目指します。

基本目標６：持続可能なまちづくりを支える市政運営

市民一人ひとりの活力を地域づくりに発揮できる協働によるまちづくりを推進するとともに、健全な財政基盤づくりと多様化する市民ニーズに的確に対応した行政サービスを提供できる体制づくりを行うほか、幅広い分野で近隣自治体との広域的な連携を図り、持続可能なまちづくりを支える市政運営を目指します。

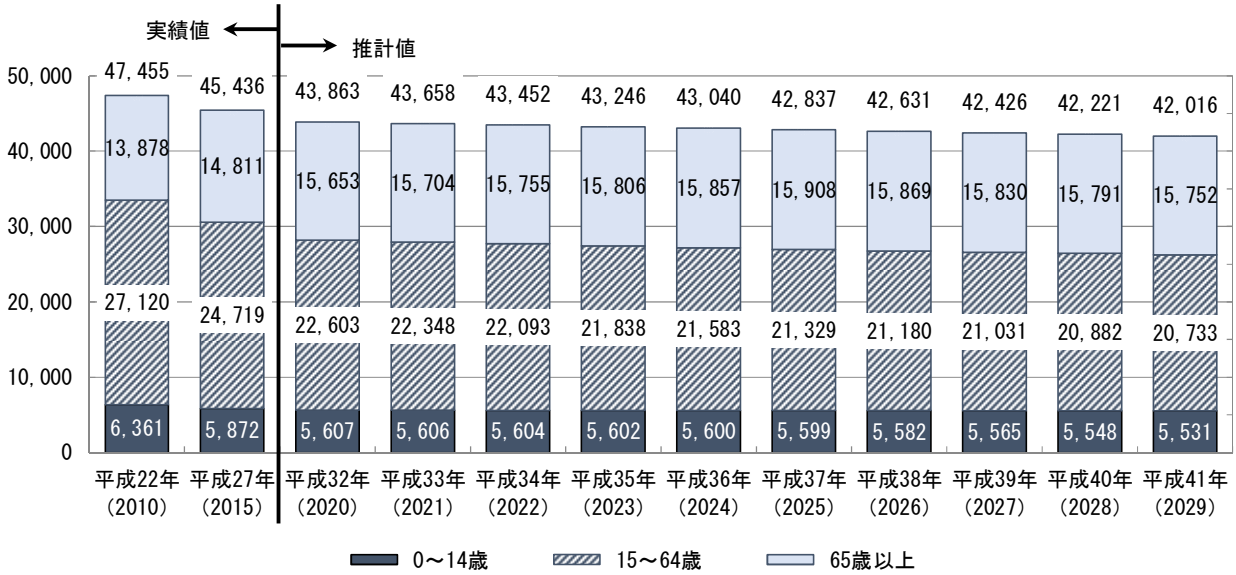
また、公共施設等総合管理計画に基づき、施設の長寿命化や有効活用につながるよう、限りある資源を有効に活用する経営的な視点を持って公共施設マネジメントに取り組みます。

第３章　人口指標

本市の総人口は減少を続けており、今後も減少が見込まれる中で、平成 27 年度（2015）に策定した「島原市人口ビジョン」、「島原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、平成 47 年（2035）において 40,000 人以上の人口を確保することを目標としています。

そこで、本計画期間においても総合戦略の目標人口を踏まえ、人口減少に歯止めをかける様々な施策を積極的に展開し、計画最終年度である平成 41 年（2029）の目標人口を 42,000 人とします。

図表　計画期間における人口の推移（推計）



注）実績値の総数には「不詳」を含むため、
内訳を合計しても総数に一致しない。

図表　人口指標（計画期間の目標人口）

指　　標　　名	現況値（2015）	目標値（2029）
計画期間の目標人口	45,436 人	42,000 人

第４章　施策体系（案）

（基本理念）

「ひと」・「まち」・「暮らし」
今日（いま）を支え、明日（みらい）を創るまちづくり

（将来像）

『未来へつなぐ島原らしさ
暮らし続けたい、訪れてみたい、魅力あふれるまち』

基本目標１：自然と歴史、都市の魅力が調和したまちづくり

１－１　自然と歴史、都市機能が調和するまち（都市基盤・景観）
１－２　地域や暮らしをつなぐまち（道路・公共交通・情報通信）
１－３　豊かな水を守り、活かすまち（水道・水資源）

基本目標２：安全安心で住みよいまちづくり

２－１　快適に住まうまち（住環境・定住促進）
２－２　環境にやさしく暮らすまち（循環型社会・環境保全）
２－３　いざというときに備えるまち（消防・救急体制・防災）
２－４　地域の安全を守るまち（防犯・交通安全）

基本目標３：賑わいと活力を興すまちづくり

３－１　自然の恵みを供給するまち（農林業）
３－２　水産資源を守り育てるまち（水産業）
３－３　暮らしを支える商工業のまち（商工業）
３－４　訪れてみたい、魅力のあるまち（観光業）
３－５　新たな活力を育むまち（雇用対策・新産業の育成）

基本目標４：健康で自立と生きがいを支えるまちづくり

４－１　生涯を通じて健康に暮らすまち（健康づくり・保健活動）
４－２　安心して医療を受けられるまち（医療）
４－３　身近な支え合い、助け合いのあるまち（地域福祉）
４－４　安心して子育てできるまち（子育て支援）
４－５　いきいきと高齢期を過ごせるまち（高齢福祉）
４－６　自分らしい生活を目指せるまち（障害福祉）

基本目標５：将来を担う人材と豊かな心を育むまちづくり

５－１　いきいきと学び育つまち（学校教育・青少年健全育成）
５－２　心の豊かさ、交流を生むまち（社会教育・家庭教育）
５－３　スポーツでつながりをつくるまち（社会体育）
５－４　ふるさと島原を継承するまち（歴史文化）

基本目標６：持続可能なまちづくりを支える市政運営

６－１　お互いに認め支え合い市民とともに行動するまち（市民協働・人権）
６－２　信頼ある行財政運営を推進するまち（行財政運営）
６－３　島原半島の発展を担うまち（広域行政・地域間連携）

第7次島原市市勢振興計画基本構想（素案） 基本理念、将来像の考え方

◎市民アンケートから
・幸せ実感度の判断に重視した点
「健康状態」52．7% 「家計の状況」50．3% 「家族関係」48．8%
→健康、安定、暮らしを重視する
・自然の豊かさを実感している:「そう思う」86．4%
・市の歴史や文化に愛着を感じている:「そう思う」62．0%
→自然や歴史文化への意識の高さ
・地域が元気で産業に活力がある:「そう思わない」73．6%
・市外から人が訪れたくなる魅力のあるまちだと思う:「そう思わない」58．1%
・自身はまちづくりを担う一員と感じる:「そう思わない」61．9%
→元気や活力、魅力、協働が足りない
・まちづくりに必要なキーワード
「安心できる」36．8% 「自然豊かな」23．1% 「活力のある」21．6%
→安全安心、自然、活力

◎まちづくり座談会から
・自然環境を魅力とする意見
・島原らしさを大切とする意見
・島原の特色をPRが必要とする意見
・地域でのふれあいやつながりが大切だとする意見
・農水産物の良さを実感している意見
→自然や産物を含めた島原の特性、島原らしさ、
地域のつながりが大切

◎市勢振興計画審議会から
・地域のつながり、まちづくりへの参画の重要性
・若者も活躍できる環境整備の必要性
・市民のやる気が出るようなキャッチフレーズが望まれる
・島原の魅力発信が必要

〇地域のつながり、協働 → 「ひと」とのつながり、「ひと」を育てる
〇島原の特性、自然や歴史文化 → 「まち」の魅力、資源
〇健康、家計を幸せの要素ととらえる → 「暮らし」の安定・安全安心、快適な「暮らし」
〇活力や魅力が足りない → 「賑わい」「訪れてみたい、魅力あふれるまち」を創る

＝ 「ひと」「まち」「暮らし」

基本理念

「ひと」「まち」「暮らし」
今日（いま）を支え、明日（みらい）を創るまちづくり

※島原市が直面する様々な今日（いま）と向き合い、
支えながら、明日（みらい）へ受け継ぐ魅力を創り、育む

将来像

未来へつなぐ島原らしさ
暮らし続けたい、訪れてみたい、魅力あふれるまち

※今まで受け継がれてきた地域の資源や特性の中で育まれ
これからも育んでいくものすべてを「島原らしさ」とし、
未来へつなげていく

第3回島原市市勢振興計画審議会資料

第7次島原市市勢振興計画基本構想（素案）における人口指標について
（島原市人口ビジョンの取扱い）

【経緯】

島原市は、「島原市まち・ひと・しごと総合戦略」の策定に併せて、人口の将来展望を示すものとして、平成27年10月に「島原市人口ビジョン」を策定している。策定時は、平成22年の国勢調査の実績値をもとに、各種施策の効果を反映させた形で将来人口の推計値を算出している。

今回、第7次島原市市勢振興計画基本構想（素案）を作成するにあたり、最新の平成27年の国勢調査の数値を「島原市人口ビジョン」に反映させたところ、以下の表のとおりとなった。

【島原市人口の見通し】

	平成22年（2010）	平成27年（2015）	平成32年（2020）	平成37年（2025）	平成42年（2030）	平成47年（2035）	平成52年（2040）	平成57年（2045）	平成62年（2050）	平成67年（2055）	平成72年（2060）
新たな推計値（A）（2010、2015が実績値、2020以降は推計値）	47,452	45,436	43,889	42,862	41,831	40,875	39,970	38,994	38,034	37,187	36,488
島原市人口ビジョン推計値（B）（2010が実績値、2015以降は推計値）	47,452	45,185	43,863	42,837	41,809	40,858	39,949	38,969	38,006	37,157	36,455
（A）−（B）	0	251	26	26	22	17	21	25	28	30	33

【方針】

平成27年の国勢調査の数値を実績値として反映させると、（A）−（B）にあるように、平成32年以降各年で20人程度の差が出るが、その差は全体の数値からすると僅かであり、「島原市人口ビジョン」の将来展望に影響を与えるほどの差であるとは考えられないことから、第7次島原市市勢振興計画の計画期間である2029年の将来人口（目標人口）は、現行の「島原市人口ビジョン」に基づき算出した数値を用いることとする。

（「島原市人口ビジョン」の推計値は5年ごとの数値であることから、基本構想（素案）に記載する毎年の推計値は、5年で案分した数値とする。）